

外科 マンスリーレター 2021.07

「新チームの御紹介」

日頃より大変お世話になりありがとうございます。副院長・外科(外科・消化器外科・乳腺外科)統括診療部長の光吉明と申します。今春から多少のメンバーの入れ替わりがありましたので、あらためて皆様にそれぞれの役割やキャラクターなど、ご紹介させていただきます。



- ① 竹島 潤(2019年卒) 大津赤十字病院で2年間の初期研修を終え、京大外科専門医プログラム(後期研修)の一員として今年から3年間、当院を中心とした外科研修を開始しました。可能性は未知数であり、これから大きな戦力となって当科を盛り上げてくれそうです。
- ② 市川 淳(2016年卒) 福岡徳洲会病院で初期研修と外科専門医研修を終え、今年から当科のメンバーとして消化器領域全般を担当しています。クールな表情のなかに情熱と冷静さを共存させており、九州男児の底力を垣間みるような雰囲気です。
- ③ 藤田 覇留久(2014年卒) 卒業後すぐに当院へ初期研修医として、続いて当院での後期研修をおこない日本外科学会外科専門医を取得、一通りの基本手術は何でもこなせるようになりました。当院の生え抜きとして現在は後輩達を指導する立場でも活躍中です。
- ④ 岡部 あさみ(2013年卒) 残念ながら今年度からは週2回(火・水)の勤務です。緻密で丁寧な診療を信条としています。水曜日の「女性外科外来」は従来通りですので、今までと同様に「男性医師は苦手」という女性患者様の御紹介をお待ちしております。
- ⑤ 戸田 孝祐(2004年卒) 当科赴任2年目となり、中堅医師の中心的役割を担っています。肛門、大腸疾患を中心とした消化管の内視鏡手術担当です。また鼠径ヘルニアの内視鏡手術にも造詣が深く、再発症例、難治症例を積極的に治療する体制を整えています。
- ⑥ 平井 健次郎(2003年卒) 今年度からは消化管部門の外科部長として、当科の消化管手術・内視鏡手術・ロボット手術の執刀、指導医として重要な役割を担っています。一昨年に直腸癌に対するロボット支援下手術を開始しましたが、お陰様で順調に御紹介症例および手術症例が増えています。

- ⑦ 大江秀典(2001年卒) 今年度からは肝胆膵部門の外科部長として、自身のさらなる手術スキルアップとともに後輩の指導にあたっていただく予定です。当院感染症科診療部長も兼ねており、covid19収束の目途が立たない現在、まだまだ多忙な日々が続きそうです。
- ⑧ 橘 強(1996年卒) 乳腺外科部長として、非常勤の森田翠医師とともに整容性と根治性を両立させた手術(乳房再建術)、ホルモン・化学療法を担当しています。昨年covid19の影響で手術症例数が激減した反動か、今年の手術症例は増加傾向です。
- ⑨ 光吉 明(1986年卒) 専門は肝胆膵領域の悪性疾患に対する外科治療です。外科統括診療部長の他に、医療の室・安全管理室長および患者相談支援室担当部長として、当院の医療を出来るだけ安全に、高い満足度で患者さんに提供できるよう努力しています。

簡単にご紹介させていただきましたが、以上のような布陣で今年度もお願いいたします。当科は京都大学外科学教室の関連病院として、ロボット支援下手術に代表される最先端治療を積極的に取り入れており、消化管領域では緊急を含めて約9割が内視鏡外科手術です。キズの小さい、痛みが最小限の、体に優しい手術を希望される患者さんは是非当院へ受診していただけるよう、宜しくお願い申し上げます。

今後とも市立大津市民病院外科・消化器外科・乳腺外科を宜しくお願いいたします。

